

令和5年度 表彰者紹介・授賞理由

木村賞

鈴木 和浩 氏（国立科学博物館筑波実験植物園）

25年にわたって3,000種を超えるラン科野生種の栽培管理に従事し、国際的にも評価の高いコレクションの構築に大きく貢献した。また卓越した栽培技術で珍しいランの開花に成功しているほか、他のさまざまな分類群の栽培困難な植物の栽培にも成功し、生息域外保全と展示、さらにそれらの植物を用いた研究に対しても多大な貢献をしてきた。

植物園功労賞

令和5年度該当者なし

坂崎奨励賞

関 正典 氏（東北大学学術資源研究公開センター）

広大な自然林の大部分が国指定の天然記念物である東北大学植物園において、通常の気象災害による倒木の発生や土砂崩れ、東日本大震災による斜面崩落・施設倒壊、マツ枯れやナラ枯れなどの対応策に尽力され、植生の健全な管理に大きく貢献されてきた。また、絶滅危惧植物の域外保全や種の保存法対象種の圃場栽培実験などにも従事してきた。

保全・栽培技術賞

志内 利明 氏（富山県中央植物園）

栽培温室植物の葉が黄白化する現象は、灌漑に使用している中水の水質（pH）が原因であり、微酸性化した中水の使用で症状や生育が改善すること、一方、好石灰植物では、微酸性化した中水の灌漑で、逆に、葉の黄白化や衰弱が見られることを発見した。

微酸性化水の灌漑による温室植物の葉色の改善について（日本植物園協会誌 57: 47-54 に発表）

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

北海道日高地方様似町のアポイ岳およびその周辺に局在する固有種ヒダカソウ自生地株の保護・増殖の取り組みを2011年に開始し、増殖法の確立のみならず、冷却棚の開発、研究機関への協力、社会教育、増殖株の様似町への里帰りなど多岐にわたる活動を行ってきた。

北海道大学植物園におけるヒダカソウ *Callianthemum miyabeianum* 生息域外保全の10年間（2011～2020年）の成果（日本植物園協会誌 57: 66-71 に発表）